

智頭町第7次総合計画進行管理結果

平成29（2017）年度事業

平成30（2018）年6月

企画課

1 目的

第7次智頭町総合計画を推進するため、総合計画に記載されている基本計画について進行管理を適切に行うための仕組みを構築し、それぞれの所管課においても計画の進捗状況を管理する。

2 進捗状況の検証

各所管課は、年度末に事業それぞれにPDCAサイクルマネジメントを実践するため、進行管理検証シートを作成し、内部評価を実施する。

3 進行管理検証シートの作成

- ・各課の事業それぞれに進行管理検証シートを作成及び評価
(※検証結果はホームページで公表予定)

4 評価指標

評価については、第7次智頭町総合計画の将来像を達成しているかについて評価することとするが、個別の事業計画において目標値を設定している場合はその目標値への達成度に鑑み、進行管理検証シートの《評価》欄に下記のとおり、A～Eを選択した。評価内容については、各課各事業において検証結果について記述した。

「将来像：一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」

評価	内 容	達成度合
A	「将来像」に十分に達成している	100
B	「将来像」にかなり達成している	75
C	「将来像」に達成しつつある	50
D	「将来像」にあまり達成していない	25
E	「将来像」に達成していない	0

1 森の恵みを活かしたまちづくり

森の恵みを活かしたまちづくりの全体的な評価としては、B「かなり達成した事業」が33事業中6事業となっており、全体的な達成度は低い。

しかし、その中でも森のようちえんは、智頭町が子育てしやすいというイメージ定着に十分に寄与しており、さらには森のようちえんのような自然保育が鳥取県全体へ拡大したことは、子育て環境のPRに大きく貢献をしている。また森林セラピー®は新規ロードの開設により新たな魅力や機能が付加され今後の利用者増加への期待度が高まっている。

林業分野では、新需要喚起として、温水プールでの木質バイオマスを活用した資源の循環利用は、薪ボイラーの年間必要量に薪の供給が追いつかない状況が続いている。また薪ストーブの導入実績も3台となっており、今後周知を図ることが必要となっている。

森林セラピー®を核として、企業のメンタルヘルスプログラムを提供し、自然豊かな本町で過ごしていただき、受入体制を整備する「疎開と癒しの郷」構想は、予定していた企業の受入ができなかったが、受入体制にかかる施設整備等を行った。今後はさらに積極的な誘致営業を行うことが必要となっている。

平成28年3月に智頭町景観計画を策定し、そして平成30年2月には本町の林業が江戸時代から生業として産業の中心であり、先人達から現在まで変わらず受け継いで来た結果、国の「重要文化的景観」に選定された。このため、景観意識の醸成を図り、景観計画の周知のためのリーフレットを作成することが重要でありながら、作成に至っていない状況である。

森林セラピーを活かした観光振興のPR不足も否めないなか、継続した取り組みの中で総合的なプロモーション活動を行うことが必要であり重要である。

今後も農林業の振興や新たな仕事づくりや人づくりを模索していくことで、将来像への達成度を今後高めていく。

I 森の恵みを活かしたまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿なくらし		1			
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる		3	20	4	
環境整備	町民尾安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		2	2		1

2 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成した事業」が30事業中8事業となっており、全体的な達成度は低い。

乳幼児健診は、受診率は高い傾向であるが、なかなか100%に達していない。健診では、管理栄養士による栄養相談、臨床心理士による子育て相談も実施しているが、今後はさらに受診しやすい体制の見直しや健診の必要性についてPRを強化していく必要がある。

本テーマでは福祉施策の核となる計画として、平成29年3月「智頭町地域福祉計画」(第3期)を策定し、人と人、地域と地域をつないで住みよい「福祉の町」を目指すとともに、健康ちづ21をはじめとする様々な事業計画の見直しを行った。計画の見直しにあたり、町民の健康状態、健康意識及び日常生活レベルを把握するために実施したアンケート結果からは、健康意識の向上を図るためには、住民が集まる場所等に出向く等直接的な訴えによる効果が大きいと予想することができた。

成人を対象とした特定健診やがん検診等では、受診率が微減傾向であり、未受診者への受診勧奨の手法を検討する必要がある。特定健診については、特定健康診査等実施計画(第2期)の評価を行い、計画を修正した。

介護予防においては、平成29年度に「第7期智頭町高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、その目的として「福祉=暮らし」という原点に立ち返ることで、福祉を土台に領域を横断した様々な分野、多世代が協働し、発展していく「福祉のまちづくり」の推進を図ると明記しており、そのためには介護予防の普及に取り組むと同時に、現状把握及び実行・検証を積極的に行うことが重要である。

看護師確保対策では、看護職員を計画的に採用し、病院経営を安定するために奨学金制度を実施しているが新規の申請がなく、制度の周知等積極的な働きかけが必要である。

水道事業における老朽化に伴う施設更新事業では、計画的な更新ができておらず、今後は優先順位等を設けるなどして更新を図る必要がある。

今回の検証において、「水洗化向上対策事業」は、事業の目的が既に達成されていることから事業を廃止することとなった。

安全・安心に暮らすためには他分野との連携が重要であり、将来像達成のために更なる連携強化を図る必要がある。

Ⅱ 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし		4	11	1	
環境整備	町民尾安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		4	6	4	

3 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

子どもから大人まで学びと成長のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成した事業」が35事業中5事業となっており、全体的な達成度は低い。

子どもを取り巻く環境は人口減少、少子化、核家族化などによって、個々の生きる力が求められる時代へと変化しており、教職員の教育力の向上をはじめ、家庭との連携あるいはきめ細かな指導や支援の充実を図っている。しかし課題も多く、今後も保育園、学校、家庭、地域が一体となった教育環境の充実を継続して行うことが必要となっている。

中学生が智頭町に愛着や誇り、いわゆる「郷土愛」を持ってもらうために、町の職員が中学校に出向き授業を行う智頭NEXTが実施できていない。中学校との協議を継続して行い、実現することが必要である。

また、生涯学習や社会教育の充実を目指している中で、各文化サークルの高齢化や会員の減少傾向であり、新図書館の建設を契機に活動を活性化させるための施策を検討していく必要がある。

子ども達は、本町の将来を担う「宝」であり、子ども達が自信に満ち溢れるための施策や、すべての町民が学びあえるための環境整備を今後も継続していくことが重要である。

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
学び	生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす		3	20		1
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる		1	1		
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		1	8		

4 地域や家族のつながりでつくるまちづくり

地域や家族でつながるまちづくりの全体評価では、A「十分に達成」が1事業、B「かなり達成した事業」が36事業中9事業となっており、全体的な達成度は低い。さらには、D「あまり達成していない」が9事業あり、本テーマの達成度が他のテーマと比較しても低いことが判明した。

在宅育児支援としてスタートした事業は、広報等により事業周知ができ、すべての対象者に給付することができた。子育て支援策の充実により今後の出生率の向上へ寄与することが期待できる。しかしながら子育て支援の、「育みの郷」事業を推進しているにもかかわらず、産科医師の確保ができていないなど、進捗の遅れが懸念される。

都市部住民とのつながりをつくり、地域経済の活性化を図るための疎開保険事業では加入者が減少傾向にあり、今後は観光協会等との連携を強化し、智頭町全体のプロモーションを積極的に行うことが必要となっている。また文化的歴史的価値がある板井原集落の今後の活性化策の早期検討や、その他観光施設等へのインバウンド対応を見越した対応が急務である。

今回の検証において、地域でつながる幅広い仲間づくりへ展開できていないことや、本町のプロモーション不足が判明した。今後は、本町を訪れていただく「交流人口」と、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」を増加させることがUターンやIターン等の移住者確保へつなげていくため、事業をさらに強化していく必要がある。

IV 地域や家族のつながりでつくるまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
家族	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族	1	7	11	2	
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		1	4	5	
環境整備	町民尾安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境			3	2	